

D 1 家庭用電気掃除機の生活科学的研究の現況と今後の課題

大阪市大生活科学 ○上林博雄 韓国漢陽大家政 申京珠

目的：電気掃除機研究の現況を一連の研究成果として述べ、今後のこの種研究の方向と課題を明確にしようとする。

方法：生活科学（≒家政学）的研究の意義と範囲を説き、課題との関係において家庭掃除の実態については社会調査の研究方法をとり、掃除機の吸込工率と種々の床面よりの除塵性能については物理的実験方法をとり、また掃除機の使い易さと関連しては作業労働代謝量測定による人間工学的研究方法を採用した。（下記併表文献参照。）

結果：1) 研究の到達点 — ①わが国の家庭掃除の実態を約20年前の文献及び韓国・米国の実態と比較して調べ、他に掃除家事作業に対する好悪、掃除機に対する意見等を徴した。②JIS規定の「吸込仕事率」につき模範をおこなひ、掃除機各部と測定装置自体の抵抗係数を模した。③IEC規定等にもとがき特定床よりの特定塵埃に対する除塵性能を模しJIS規格の性能規定だけで充分であるかを検討した。④各種掃除機による作業量を床面別に家具量もか之測定した。2) 今後の課題 — ①家庭掃除の本質の究明。②標準塵埃の探究。③フィルター特性の研究。④掃除機による掃除作業の定量的研究。

併表文献（たゞし著者の所属学会等の関係で単独著者、異種の連名著者の場合がある。）

- 1) 社会的調査：申，上林，日家学 Vol. 34, No. 4 (1983) 資料 / 申京珠，韓家学 Vol. 20, No. 3 (1982)。
- 2) 物理的実験：山口暗久，申，上林，大阪市大生活科学部紀要 Vol. 30 (1982)。
- 3) 在上：申京珠，上林博雄，日家学 (1982年11月投稿、審査中)。
- 4) 人間工学的実験：韓家学 Vol. 20, No. 4 (1982) / 上林，沖田富美子，日建学大会梗概 (1983)。